北海道建設新聞　2019年(令和元年)6月25日（火曜日）

下水道圧送管で2倍近く流量回復

旭川浄化のアイスピグ洗浄工法現場

【旭川】下水道圧送管や上水道配水管などの管内洗浄工法として、アイスピグ洗浄工法が流量回復の成果を上げている。このほど東神楽町が発注した下水道圧送管洗浄業務をアイスピグ北海道地域協会会員の旭川浄化（吉田敏光社長）が受注。21日に発注関係者らが同工法による洗浄作業を現地で視察。2倍近くの流量回復を見せた。

黒い砂を含んだアイスシャーベットを透明パイプで確認する関係者

同工法はアイスピグと呼ばれるシャーベット状の氷を管内に注入し、汚れをこすり取り、堆積する砂や石などの夾雑（きょうざつ）物をシャーベット内に包み込んで運び、管外へ排出するもの。シャーベット状の氷なので従来のピグ工法のように詰まって取り出せなくなったり管壁を傷めたりするリスクは少ない。

洗浄を行ったのは町内の旭川空港近くにあるマンホールポンプから圧送開放点までの延長1290㍍、管径150㍉。途中、川の下を通るため、河川部分では4㍍の伏せ越しの形状がある。この圧送管では周辺世帯数件を含むものの、ほとんどが旭川空港から出る汚水を運んでいる。当日は東神楽町の下水道担当者、旭川市の旭川空港事務所職員ら5人が洗浄作業を見学した。

アイスシャーベットを管内に注入し、水流や圧力を調節しながらアイスシャーベットは形状を変えながら管内を移動し、夾雑物を取り込んで排出。目視用に排出側に設置された透明アクリルパイプには洗浄された真っ黒い砂を含んだアイスシャーベットが流れ込んできた。見学者はサンプルとして取ったアイスシャーベットを確認していた。施工前は毎分0・43立方㍍だった流量は1・8倍の0・79立方㍍に回復した。

同工法での洗浄距離は全国で累計80㌔に迫っている。年度内には100㌔を超える勢いだ。

（企画記事）